学校番号	121

令和３年度　国語科

教科	国語	科目	現代文Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	新編現代文Ｂ（東京書籍）						
副教材等	常用漢字ダブルクリア（尚文出版）、別冊徹底トレーニンググノート						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・１年で学習した内容をさらに発展させ、より深く作品を理解しましょう。
・作品の理解を深めたうえで、意見や考えをことばや文字で表現できる力を養いましょう。
・作品内の語句などの意味を理解し、知識を増やしてゆきましょう。

2　学習の到達目標

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語力の向上を図り人生を豊かにする態度を育む。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させることができている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	取組みの状況 提出物 学習状況の観察 ノートやワークシートの記述	取組みの状況 学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 授業における行動	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期考査	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1学期	随想1	教材: 「こそそめスープ」	○	○	○	◎		a:教材に興味を持って接している。 b:自分の感じたことを言葉で表現している。 c:筆者と同じような勘違いをしていたことがないか考え、書き出している。 d:筆者の心情を考えながら文章の大意をつかんでいる。	a、c、d: ノートの確認及び定期考査 b:話し合いの観察
	小説1	教材: 「みどりのゆび」	○	◎		○	○	a:小説という表現形式の特徴を理解している。 b:積極的に話し合いに参加している。 d:時間的経緯を確認して、物語の進行を理解している。 e:作者について関心を持って調べている。	a、d、e: ノートの確認及び定期考査 b:話し合いの観察及び記述の確認
2学期	評論1	教材: 「ふしぎということ」	○		◎	○	○	a:文章の題名がどういうことを象徴しているのかを捉える。 c:自分が伝えたい内容を、相手が理解しやすい形態や語句により、適切に表現している。 d:ニュートンや釈迦牟尼のものの捉え方について理解している。 e:文章を書く上での適切な表記や表現方法を身につけている。	a、d、e: ノートの確認及び定期考査 c:記述の点検
	詩歌1	教材: 「I was born」 「ぶぅぶぅ紙を…」	○			◎	○	a:作者に関心を持っている。 d:散文詩の特徴を理解したうえで、独特な表現やリズムについて気づいたことを挙げている。 e:特徴的な詩の表現や技法を理解する。	a、d、e: ノートの確認及び定期考査
	小説2	教材: 「旅する本」	○	○		◎	○	a:登場人物たちの思いやお互いの心の交流について興味をもち、知ろうとする。 b:本文の表現を根拠として，的確な具体例を交え，作品の感想を述べている。 d:「グロテスク」などの特徴的な表現に気づき、心情を的確に理解している。 e:表現の内容を的確に理解している。	a:行動の観察及び記述の点検 b、d、e: ノートの確認及び定期考査

3学期	小説3	教材: 「こころ」	○			◎	○	a:小・中学校を通じて過去に読んだ夏目漱石の作品を思い起こし、筆者と作品に関する興味をもち、内容への関心を深めている。 d:登場人物それぞれの置かれた状況や行動、心情について分析し、自分なりに主題に関する理解を深め、整理している。 e:主要な漢語の二字熟語や同音異義語の意味を理解している。	a、d、e: ノートの確認及び定期考査
	評論2	教材: 「思考の肺活量」	○			◎	○	a:正解がない問題にはどのようなものがあるかについて関心を持ち、話し合っている。 d:「思考」のために必要な「肺活量」とはどういうものか理解している。 e:教材に出てくる常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字の意味を理解したうえで書くことができる。	a:行動の観察及び記述の点検 d、e: ノートの確認及び定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く能力　c:書く能力
d:読む能力　e:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて〇印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。